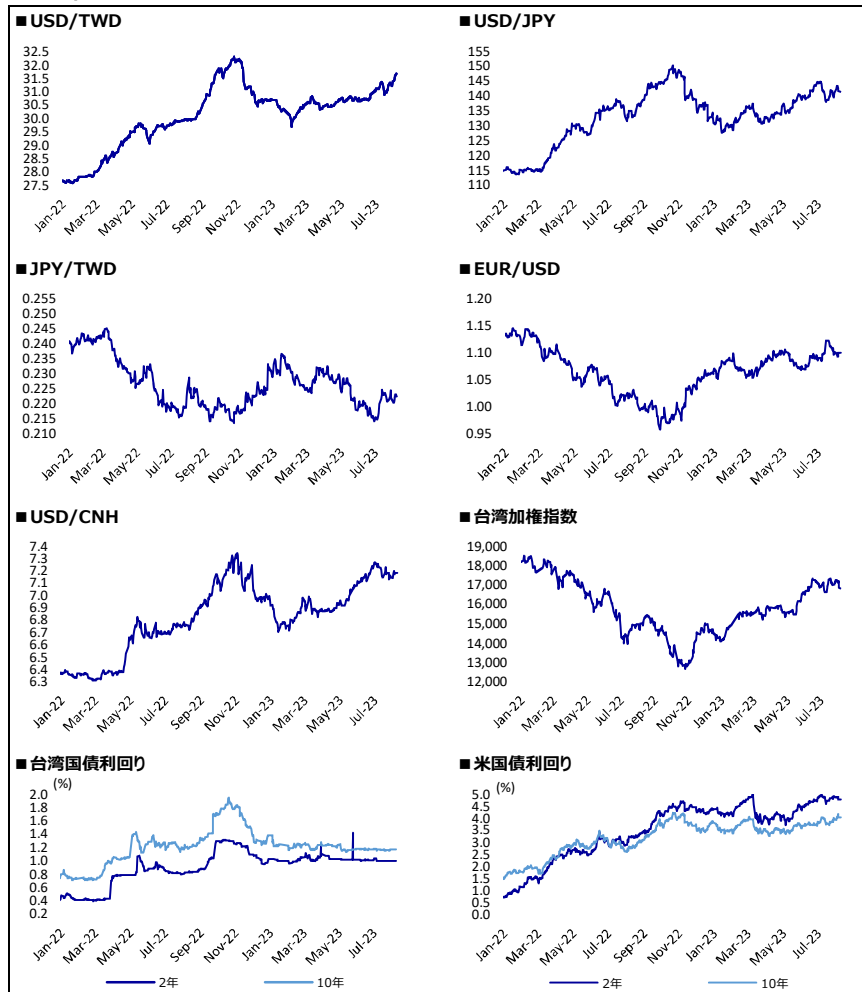


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇し、約9か月ぶりの水準に。週初7/31は31.350でオープン後、台湾株が上昇するとつられて31.335まで下落するも、すぐに戻し、台湾株が下落に転じると台湾ドル売り優勢となり、31.4台半はまで上昇。8/1はドル全面高や外国人投資家の受取配当金の海外への送金により台湾ドル売りが優勢となり、31.5台に乗せた。8/2は米国債の格下げを受けて安全資産への逃避の動きが強まり、台湾株安台湾ドル安の流れとなり、31.6台前半まで上昇。8/3は台風により休場となったが、8/4は前日の休場により外国人投資家の台湾ドル売りが溜まったため、31.713まで上昇。しかし、31.7台では輸出企業のドル売りが入り上値を押さえ、最終的には先週比1.0%ドル高台湾ドル安の31.691で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は317.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初7/31は141.00でオープン後、140円台後半で推移していたが、日銀による臨時の国債購入オペが行われたことを受け、円売りで反応し、141円台後半に上昇。その後は日米金利差も意識され、142円台後半まで上昇したが、一巡後は142円台前半に値を戻した。8/1も日銀の金融緩和維持姿勢が意識され円が売られると、143円台半はまで上昇。8/2は米大手格付機関が米長期債を格下げすると報道を受け、ドル売りに押され、142円台前半まで下落するも、米7月ADP雇用統計の強い結果を受け、米金利上昇に合わせ143円台半ばに値を戻した。8/3は日銀による臨時オペの実施通告を受けて、一時143.89に上昇。しかし、一巡すると円が買い戻され、米7月ISM非製造業景気指数が市場予想より悪化し、142円台前半に反落。8/4は米7月雇用統計を控え、142円台のレンジで推移していたが、米雇用統計が発表されると米7月非農業部門雇用者数変化は予想を下回るも、平均時給は予想を上回り、米7月失業率も予想より低下と、強弱まちまちな結果に。発表直後は一時乱高下したが、次第に売りが優勢となり、141.55まで下落。売り一巡後は週末を控え小幅な値動きとなり、最終的に先週比0.4%ドル高円安の141.76で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.300-31.800
今週は上値が重いと見込む。米雇用統計を受けて米金利が低下しており、一旦は台湾ドル売りが落ち着くと見込む。ただし、今週は米7月CPIの発表を控えており、インフレ鈍化が確認されると見込んでいるものの、市場予想を上回り、インフレ懸念が再燃すると利上げ期待が高まるため、警戒したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：140.00-143.80
今週は底堅く推移すると見込む。米雇用統計を受けて米金利は低下したものの、引き続き日米金利差はある状態は続いており、一段の円高とはなりにくいであろう。今週は米7月CPIが発表を控えており、内容次第により利上げ期待が高まるため、注意したい。

今週の予定

8/7 (MON)	
8/8 (TUE)	台湾7月CPI、台湾7月貿易収支、米6月貿易収支
8/9 (WED)	
8/10 (THU)	米7月CPI
8/11 (FRI)	米7月PPI、米8月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。